

【ポスター発表】

## 日本における外国人留学生の位置付け

ーコロナ禍中の生活実態調査からー

○ 県立広島大学大学 金明月 (010073)

キーワード：外国人留学生 位置付け 連携強化

## 1. 研究目的

コロナ禍が発生してから外国人留学生に対する生活上に適切な支援を見出す必要であり、原点としての日本におけるの位置付けを明らかにすることが重要である。本研究の目的は、外国人留学生が日本における留学する期間には、安心して生活できるため、まず、日本における外国人留学生の位置付けを検討していくとするものである。

## 2. 研究の視点および方法

本研究の視点は、外国人留学生の生活に着目し、ソーシャルワークの視点から考えるというものである。

本研究の方法は、先行文献と調査結果をまとめたうえで、アンケート調査を行うこととする。

## 3. 倫理的配慮

本研究は、県立広島大学研究倫理委員会で承認を得た（承認番号：第22MH030号）。研究参加への関心が示された対象者に対して説明を行い、対象者が内容を理解、納得をしたうえで、同意を得た。得られたデータを匿名化し、分析する際には個人情報を保護された。本研究における開示すべきCOIはない。

## 4. 研究結果

先行文献と外国人留学生に関する調査結果や報道を検討した結果、今の日本社会では、外国人留学生の社会的つながりが脆弱で、生活上により深刻な困難な状況に追い込まれてしまう危険性が高いと分かった。また、約30%の外国人留学生が奨学金を受給しているが、約70%の外国人留学生がアルバイトをしていて、言語の苦労や高い支出と悩んでいる外国人留学生も多くいると分かった。

SNSで配信してアンケート調査を行った結果、外国人留学生に対してやさしい日本語を使って調査する必要があると分かった。また、奨学金を受給している外国人留学生が増えているが、新型コロナウイルス感染症の影響があり、経済の問題や進路を悩んでいる外国人留学生が多かった。そして、外国人留学生は言語や研究などの学習が大変である一方、進学を考えた時や来日したばかりの時には、不安が多く出た。特にコロナ禍中に学

習と生活の両立が大変で、孤独感も生じた。

## 5. 考察

今回アンケート調査の結果からみると、調査対象となった外国人留学生に対して、生活の基盤を安定させることが重要であり、経済やコミュニケーションの支援が必要であった。ソーシャルワークの視点からみると、外国人留学生の個別性を配慮するだけでなく、外国人留学生が共生社会の環境にいる位置付けが明確にすべきだ。これは支援の出発点であった。

今回は、外国人留学生は日本におけるマイノリティーとしての存在であったが、在籍している学校相談窓口から外国人留学生の悩みを聞いて、地域の情報とのつながりを相談できる人と一緒に探すという支援プログラムが支援の原点であった。このような意識を持って、今後も必要な社会資源を活用して外国人留学生に対する適切な支援をやって行くと考えられる。